

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 10 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520393

研究課題名(和文) 現代中東文学における「ワタン(祖国)」表象とその分析

研究課題名(英文) the analysis of the representation of "Watan (Homeland)" in the Modern Middle Eastern Literature

研究代表者

岡 真理 (Oka, Mari)

京都大学・人間・環境学研究科(研究院)・教授

研究者番号：30315965

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：日本における、中東の三大言語文化圏であるアラブ世界、イラン、トルコの現代文学研究者を結集し、中東現代文学のさまざまな時代、作品・作家における「ワタン(祖国)」表象の分析・考察をおこない、それを通して、歴史的には近代初頭から植民地時代を経て2011年の一連のアラブ革命に至る、西アジアから北アフリカに及ぶ中東諸社会における、「祖国」なるものをめぐる文化的ダイナミズムを明らかにするとともに、中東に生きる人々の生と精神性の諸相の一端を探究した。

研究成果の概要(英文)：Organizing Japanese scholars specializing in Arabic, Iranian and Turkish literature, our project focused on the representation of "Watan (Homeland)" in various works of the respective literature, and revealed, through its analysis, the cultural dynamism with which the Middle Eastern societies have evolved around the concept of "Watan" since the beginning of the modern age till the current Arab revolutions in the 21st century through the colonial era in the 20 century, and explored the aspects of the lives and the mentality of people living in the Middle East.

研究分野：現代アラブ文学

キーワード：中東 文学 祖国 表象

1. 研究開始当初の背景

元来アラビア語である「ワタン」は、アラビア語圏だけでなく、中東イスラーム世界のさまざまな言語で「祖国」を意味する語として流通している。中東イスラーム世界とは、たんに複数の国の集合体ではなく、言語の違いを越えた共通性をもつ世界であり、同時に、中東世界のプロブレマティクは中東地域の枠を越えてさまざまな地域に浸透している。本研究は、「ワタン」を鍵概念として、主に中東の諸言語で書かれた文学作品にあらわれた「ワタン」表象を分析することで、この二重の越境性を有する中東世界の歴史のかつ現代的ありようの一端を明らかに出来るのではないかと、という問題意識から出発している。

中東文学に限らず近代文学それ自体が近代的プロジェクトであり、ナショナルな志向性と本質的に結びついたものであった。初期近代中東文学のなかでは、近代西洋との対比によって看取されるワタン、あるいは、植民地支配からの独立・解放を希求するワタンが描かれており、そのときのワタンは多分にナショナルなものとして結びついてきた。文学研究の側も事情は同じであり、現在、中東諸語で書かれた文学作品の研究は、言語別、国別の研究が主になされている。中東諸語で言うなら、アラブ文学研究、ペルシア文学研究、トルコ文学研究といった縦割りの研究体制を採ってきた。ある意味で研究対象の側のナショナルな志向性と研究者側の制度が凶らずも一致してきたなかで、「ワタン」なるものもある種、自明なものとしてされてきた。しかし、近代プロジェクトとしての国民国家を批判的に対象化するポスト・モダンの視座を中東現代文学が獲得することにより、ワタンもその自明性を剥奪され、性格を変えていくことになる。とりわけ西洋列強の植民地支配から解放を勝ちとった人々を待っていたのは、植民地時代と変わらない抑圧的な独裁体制であり、あるいは内戦、あるいは革命による疎外だった。また、現代の大陸間経済格差が生み出す人口移動によって、ヨーロッパやアメリカで中東出身の二世、三世が、「ドイツ人」「フランス人」「アメリカ人」として生まれ育っているが、彼、彼女らにとって「ワタン」とはどこなのか、そもそもワタンとは何なのか移民文学のジャンルで問われている。総じて、ワタンが当初有していたナショナルな志向性が薄められ、より多様な相を見せるようになったとまとめることができる。こうした状況に対して従来の言語・国別の文学研究の枠組みは無力であり、文学研究を通じたダイナミックな中東地域研究の遂行のためには、研究者側の研究体制を組み替えることが急務であった。本研究はその要請に応えるために企図された。

2. 研究の目的

中東イスラーム世界は、国民国家や言語に

よる境界を越え、有機的な言語文化世界を形成しており、それと同時に、近代における歴史的経験も、差異をほらみつ、**「中東社会」**としての共通性をもっている。その中東イスラーム世界で生産される文学作品も、それぞれの言語圏、それぞれの国の歴史的、社会的差異を反映して、その国固有の文学的特徴を有するとともに、数多くの共通点も併せもつ。本研究の目的の第一は、従来、一国文学史的な枠組みのなかで、個別に中東現代文学を研究してきた日本の中東現代文学研究者を組織化し、現代の中東世界で生み出されてきた/生み出されている文学を「中東現代文学」として捉え、研究するためのプラットフォームを整備することである。そのために、私たちが注目したのは、中東世界を歴史的・地域的に貫いて存在する「ワタン(祖国)」という概念だった。本研究の第二の目的は、一国文学史的な枠を越え、国家・言語横断的な比較研究の視座に立ち、中東の諸言語で生産されてきた種々の文学作品に描かれる「ワタン」表象を分析することで、中東世界の二重の越境性と、近現代の中東に生きてきた人間とその社会の歴史的経験の軌跡、そしてその延長上にあるさまざまな〈現在〉の諸相を明らかにすることである。

3. 研究の方法

中東現代文学の、中東世界内部における国民国家や言語圏を越えた越境性、さらには中東イスラーム世界の、中東を越えた周辺地域への越境性という二重の越境性を総合的に把握するため、本研究は、専門とする国や言語を異にする中東諸国の諸文学、およびその周辺の文学の専門研究者による共同研究を行うことを最大の特色とする。中東現代文学研究者が、おのおの専門とする言語や地域の枠を越えて、中東文学およびワタンについての知見を共有するために、これまで言語別・国別に文学研究を行っていたこれら研究者を組織して、年2回、定例研究会を開催し、研究発表と討論をおこなう。また、中東現代文学の諸作品の翻訳を積極的におこなうことで、専門とする言語圏の違いを越えて、共同研究者同士がテキストを共有できるようにする。さらに、日本に招聘した中東の現代作家らと直接、交流をおこなう。また、年1回、一般公開講演会を開催し、研究成果を社会還元すると同時に、「文学」を通して中東世界に対する社会的理解を促すと同時に、中東文学に対する社会的関心の裾野を広げる。

4. 研究成果

まず、本プロジェクトの最大の成果は、研究分担者を中心に、日本の中東現代文学研究者十数名を組織化し、地道に定例研究会を重ねることで、日本における中東現代文学研究のためのプラットフォームを整備することができたことだろう。これにより、従来、国別・言語圏別に研究をおこなっていた日本の

中東現代文学研究者たちが恒常的に交流する基盤とネットワークがつくられ、専門とする地域や言語の違いを越えて、共同研究をおこない、それぞれの研究成果や知見を共有することが可能になった（文学研究を通して、これまでは深く知ることのなかった、おのおのの研究者が専門とする国や言語圏以外の地域について知り、広く中東世界の歴史的経験や社会のありように触れることは、本プロジェクトのテーマである「ワタン（祖国）」表象の考察・分析にとどまらず、個々の研究者が今後、自身の研究を遂行していく上で、有形無形の資源になることは間違いない）。本プロジェクトはさらに、以下のような諸成果をもたらしたが、これらの成果はすべて、この基盤整備によって可能となったものだ。

そのひとつは、『中東現代文学選 2012』の刊行である。本プロジェクトに参加している研究者が、言語の違いを越えてテキストを共有し、ワタン分析のための基礎資料とするために編纂された（全 450 頁）。中東現代文学研究者およびボスニア文学、イタリア文学の研究者ら 20 人が参加し、のべ 27 のテキストを翻訳し、（短編 16、中・長編（抄訳） 7、詩 2、エッセイ 2）解題を付した（所収作品のうちトルコの長編作品がその後、単行本化され、さらにイランの短編作品が、イラン女性作家選に収録され刊行されている）。中東の文学選はこれまでも編まれてきたが、いずれも言語別、あるいは国別のものだった。「中東現代文学」という視点に貫かれた、中東の現代文学を包括的に概観する、これだけのボリュームの文学選は本邦初であり、ワタン表象の分析のみならず、今後、さまざまな研究の資料として資するものと思われる。

中東世界は、国民国家や言語の違いを越えた中東内部における越境性と、中東地域を越えた外の世界への越境性という二重の越境的性格を有している。その中東文学を包括的に研究する基盤が出来たことで、この二重の越境性をさらに精緻に研究する端緒につくことができた。具体的には、まず、中東内部の越境性に関して言えば、「クルド文学」を「中東文学」として研究する基盤がつくられたことである。イラン・トルコ・イラク・シリアなど 3 つの言語圏、4 つの国民国家にまたがって存在するクルディスタンの文学は、クルド語、トルコ語、ペルシア語、アラビア語、その他ヨーロッパの諸言語で書かれている。従来の言語別、国民国家別の枠組みの中では「クルド文学」を包括的な視点から総合的に研究することはできなかった。「中東現代文学」という枠組みができたことで、少なくとも原理的には、今後、これら諸言語の研究者を結集することでクルド文学を総体的に研究することが可能になった（本プロジェクトを基盤として、クルド文学研究会も発足した）。

中東地域を越えた外部への越境性という点では、トルコ語、ペルシア語、アラビア語

という中東域内の三大言語によって書かれた文学作品にとどまらず、中東の周辺世界としてボスニア語によるボスニア文学や、中東出身の作家たちによってイタリア語、フランス語、英語など西洋の諸言語で書かれる作品などもとりあげることができた。これにより、中東世界のプロブレマティクが、いわゆる「中東」の域内にとどまるものではなく、その周辺世界や、欧米世界にも拡大していることが分かった。また、これまで個別に研究されていたマグレブ出身の作家によるフランス語文学や、アメリカのアラブ系移民作家による英語文学、あるいはソマリア出身の作家によるイタリア語文学、トルコ系移民の作家によるドイツ語文学などを、広く「中東移民文学」あるいは「中東ディアスポラ文学」という視点で、今後、考察する展望を得たのも本プロジェクトの大きな収穫である。シリア内戦や I S（イスラーム国）、ヨーロッパにおける中東難民やテロの問題が現代世界を大きく揺るがしている今、これら世界のありようを理解する上で、こうした文学研究の重要性はこれまで以上に高まっているといえよう。

本プロジェクトの研究成果の社会還元の一環として、毎年 6 月に東京で、一般公開講演会を開催した。2012 年は「現代トルコ文学の魅力 その眺望と知られざる側面」（早稲田大学）と題しトルコ文学の多様性について掘り下げ、2013 年は「イラン映画の詩学——中東文学の視点から」をテーマに、日本でも人気の高いイラン映画を文学研究者の視点から分析、紹介した。2014 年は「中東×アメリカ 中東文化のなかのアメリカ」と題し、従来、アメリカ文化における中東表象が問題にされてきたのとは逆に、中東の文学や映画、文化におけるアメリカ表象について分析した。

「ワタン」に関して言えば、定例研究会での発表・討論を通じて、歴史的・地域的にも長大なスパンのなかで中東世界のワタン概念をダイナミックにとらえることができた。また、2013 年にはエヴァ・ホフマン氏を招いて「人間にとって祖国とは何か」（京都大学）を開催、2014 年 10 月には、アラブ人作家 3 名を招いて、大阪大学で開催されたシンポジウム—サミュエル・シモン、モナ・プリンス、ラウィ・ハージ氏を迎えて」を共催し、作家たちが、それぞれの生の経験を通して「ワタン（祖国）」がいかなるものとして認識しているかについて考察を深める機会も得ることができた。

3 年間のプロジェクトで明らかとなったことは、この「ワタン」なるものが、近代初頭における中東世界と西洋世界との遭遇、その後の植民地支配や独立闘争、さらに独立後の独裁制という中東の近現代史において、つねに中心概念の一つとして存在し、中東社会を駆動する核となっていたことであり、さらに、近年のグローバリゼーションと中東世

界を見舞う激動のなかで、その表象のあり方・内容はますます多様化すると同時に、ワタンをめぐる中東のプロブレマティクはヨーロッパや北米など欧米世界に拡大しているということであり、現代中東世界を包括的に考察する上で、極めて有効な概念であるということだ。本研究の成果は、2015年度から、科学研究費補助金基盤研究（B）「現代中東における「ワタン（祖国）」的心性をめぐる文化表象の発展的研究」として、狭義の文学にとどまらず映画やポップミュージックやアートなど広く文化全般における「ワタン」の表象を通して現代の中東世界について研究する4か年の新プロジェクトへと発展的に継承されることとなった。2016年3月には、このプロジェクトを総括し、その成果を新プロジェクトへと架橋するシンポジウム「現代世界 - 欧州・中東を《文学》から考える」を京都大学で開催した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計10件）

岡真理, 「第三世界フェミニズムと私たち」, 『コギト（釜山大学人文学研究所紀要）』 vol.73, 2013年, pp.599 - 629.

藤元優子, 「饒舌な情人たち—アリー・ダシュティの中・短編小説に関する一考察」, 『イラン研究』 vol.9, 2013年, pp.86-116.

勝田茂, 「現代トルコ文学概要」, 『イスラーム世界研究』 vol.6, 2013年, pp.145-151.

勝田茂, 「トルコ農村文学の系譜—アナトリアの生活者からの叫び」, 『イスラーム世界研究』 vol.6, 2013年, pp.152-159.

石川清子, 「Lire et Traduire Assia Djébar au Japon」, 『el-Khitab』 vol.16, 2013, pp.83-112 [査読有り].

藤元優子（翻訳と解説）, 「ジャラルール・アーレ＝アフマド著『姉さんとクモ』」, 『イラン研究』 vol.10, 2014年, pp.153-178.

石川清子, 「記憶としてのグッド・ドール—戦後マグレブ移民とパリ」, 『静岡文化芸術大学研究紀要』 14, 2014年, pp.1-14 [査読あり].

宮下遼, 「越境なきディアスポラ作家ラティフ・テキン—「我が家のことば」をめぐって」, 『世界文学』 119, 2014年, pp.41-48 [査読あり].

藤元優子, 「ペルシア文学とエロティシズム—20世紀に焦点を当てて—序言」, 『イラン研究』 vol.11, 2015年, pp.1-8.

中村菜穂, 「ミールザデー・エシュギー『マルヤム三幕劇』における〈恋する乙女〉の現れ」, 『イラン研究』 vol.11, 2015年, pp.17-27 [査読あり].

〔学会発表〕（計17件）

石川清子, 「Quelque aspects du theme du “hammam” dans la litterature feminine de langue francaise au Maghreb」, 第2回アルジェリア・日本学術シンポジウム, 2012年5月17日, オラン工科大学（アルジェリア）,

勝田茂, 「トルコ農村文学の系譜—アナトリアの生活者からの叫び」, 中東現代文学公開講演会, 2012年6月30日, 早稲田大学.

岡真理, 「How does Modern Scheherazade Let Her Subaltern Sisters Speak? Arab Feminist Writers and Their Strategy of Representing Subaltern Women」, アジア中東学会連盟第9回大会, 2012年10月6日, 韓国釜山市.

岡真理, 「第三世界フェミニズムと私たち」, 釜山大学人文学研究所（招待講演）, 2012年10月8日, 釜山大学人文学研究所（韓国）[招待講演].

勝田茂, 「研究言語（オスマン語）教育の立場から—中東研究における言語教育を考える—学ぶ立場と教える立場—」, 日本中東学会第29回年次大会シンポジウム, 2013年5月11日, 大阪大学.

藤元優子, 「イラン映画と小説—映画化の功罪」, 中東現代文学研究会公開講演会, 2013年6月22日, 明治大学.

石川清子, 「Lire et Traduire Assia Djébar au Japon」, アシア・ジュバールの創造的作品に関する第8回コロク, 2013年11月10日, ムールード・マムリ大学（アルジェリア）.

石川清子, 「アルジェリア現代仏語文学の系譜—女性作家アシア・ジュバールを中心に—」, 日本アルジェリア協会定例研究会, 2013年11月19日, アルジェリア大使館（東京）.

石川清子, 「La Soif d'Assia Djébar : roman comme jeu-défi ou naissance de l'Assia Djébar : Le parcours d'une femme de Lettres. Littérature, résistance et transmission」, Colloque international, 2014年5月6日, オラン大学（アルジェリア）[招待講演].

山本薫, 「イスラエル・アラブの文化想像力」, 日本ユダヤ学会公開シンポジウム「イスラエ

ルの内なる他者—「イスラエル・アラブ」とユダヤ人社会」, 2014年5月31日, 早稲田大学 [招待講演].

中村菜穂, 「ペルシア文学における〈不可知〉の主題の現代的展開について—マルーチェフ・イーラーニー (伝 フーシャング・ゴルシーリー作) 『黒衣の民の王』と『七王妃物語』」, 関西イラン研究会, 2014年6月15日, 大阪大学.

中村菜穂, 「ナーデル・ナーデルプール詩集『葡萄の詩』から—「彫刻師」」, 世界文学研究会, 2014年6月16日, 共立大学.

山本薫, 「ヒップホップ・パレスチナ: 中東に広がるラップ音楽」, 中東現代文学研究会公開講演会「中東×アメリカ—中東文化の中のアメリカ」, 2014年6月21日, 早稲田大学.

福田義昭, 「新世界より—現代エジプト小説のなかのアメリカ」, 中東現代文学研究会公開講演会「中東×アメリカ—中東文化の中のアメリカ」, 2014年6月21日, 早稲田大学.

福田義昭, “Notes on the Legend of Sinimmār”, The Third Symposium of Sultan Qaboos Academic Chairs, “Managing Water Resources for Sustainable Development”, 2014年10月3日, 東京大学

山本薫, 「アラブ文学と日本」, シンポジウム「越境・表現・アイデンティティ—アラブ文学との対話」, 2014年10月19日, 成蹊大学.

鶴戸聡, ‘Le copillage du sujet chez Kateb Yacine: l'écriture archipelagique, ou la cosmographie comme 《 utsushi 》’, Colloque international: Berceau du temps, Passage des ames, パリ日本文化会館 (パリ, フランス), 2015年1月24日 [招待講演].

[図書] (計7件)

岡真理, 藤元優子, 勝田茂, 石川清子, 山本薫ほか (翻訳・解題), 『中東現代文学選 2012』, 中東現代文学研究会, 2013年, 450頁.

岡真理 (翻訳・解説), ターハル・ベン＝ジェルーン著『火によって』, 以文社, 2012年, 126頁.

ISHIKAWA Kiyoko, *Le Cercle des Amis d'Assia Djébar*, « Lire Assia Djébar ! », La Cheminante, 2012, 222p.

藤元優子訳, ゴリ・タラッキーほか著, 『天空の家 イラン女性作家選』, 段々社, 2014年,

235頁.

石川清子「アジア・ジェバール—アルジェリア人がフランス語で語ること」, 阿部賢一, 土肥秀行ほか著『ノーベル賞にいちばん近い作家たち』, 青月社, 2014年, 247頁 (pp.22-29).

宮下遼訳, ラティフ・テキン著『乳しぼり娘とゴミの丘のおとぎ噺』, 河出書房新社, 2014年, 196頁.

田波亜央江共編著『越境・表現・アイデンティティ—現代アラブ文学との対話』, 成蹊大学アジア太平洋研究センター, 2015年, 85頁.

[産業財産権]
○出願状況 (計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況 (計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岡 真理 (OKA Mari)
京都大学・大学院人間・環境学研究所・教授
研究者番号: 30315965

(2) 研究分担者

林佳世子 (HAYASHI Kayoko)
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授
研究者番号: 30208615

藤元優子 (FUJIMOTO Yuko)
大阪大学・言語文化研究科・教授
研究者番号: 40152590

勝田茂 (KATSUDA Shigeru)
大阪大学・言語文化研究科・教授

研究者番号：90252733

(3)連携研究者

石川清子 (ISHIKAWA Kiyoko)
静岡文化芸術大学・文化政策学部・教授
研究者番号：30329528

山本薫 (YAMAMOTO Kaoru)
東京外国語大学・世界言語社会教育センター・助教
研究者番号：10431947

浜崎桂子 (HAMAZAKI Keiko)
立教大学・異文化コミュニケーション学部・准教授
研究者番号：00336819